

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500198		
法人名	株式会社 ほんじょう会		
事業所名	みどりの郷 ほんじょう		
所在地	大分県佐伯市本匠大字笠掛1589番地1		
自己評価作成日	平成31年3月15日	評価結果市町村受理日	令和元年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500198-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500198-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府宮番館 1F
訪問調査日	平成31年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほんじょう」という地域性を活かし、季節ごとの自然を肌で感じていただいたり地域の方々との交流も散歩に出かけたりしてくれている。毎年開催しているほんじょうの夏まつりにおいても地域交流の一環として大きな成果を上げている。また、大切なご家族をお預かりしているため、その背景にあるご家族様との密な連絡、施設内での様子の報告、ご家族との信頼関係を築くことも大事にしており、例えば職員教育の一環としての「接遇」。誠意ある対応が全員で行えるよう指導教育を行い、入居者様、ご家族、地域の方々等、一丸となって支援を行っていきることが目標である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境が心の安らぎを満たしてくれる施設であり、近くに病院もあり、看取り支援に力を入れています。自由に動き、自由に対応し、家族との関係を構築し、親しくなる環境を作っています。利用者の尊厳と生きがいを大切にしたケアプランを作成し、地域住民、ボランティア等と連携を図り支援しています。地域の一員となる取り組みを継続しており、地域のお祭り、施設のお祭りにお互いが参加するなど交流が深まっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は作成して朝礼時に唱和を行っているが、職員の入れ替えも多く、必ずしも共有、浸透していない。	地域密着型やグループホームの意味を理解され法人全体のものから事業所に特化している理念を作られ、職員の引継ぎ等において、唱和し支援に繋がっています。	理念に対する捉え方を再度協議され、全職員が共有出来る環境づくりと入社面接や入社当初における理念の重要さをしっかり伝え、支援に望まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設外での散歩等で近所の方々との交流もあり、中学生の職場体験、ボランティアの受け入れにおいて交流を図り、夏祭り等のイベントなどにも協力をいただいている。	自治会に加入していませんが、運営推進会議等を通じ情報を把握、お祭りや地域の行事等に利用者が参加できる体制が構築され、近隣の中学生・ボランティアが施設に訪問し、利用者に安心と安らぎを与えるなど交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は定期的に「ほんじょうカフェ」を開催し交流を図っていたが、今期は職員態勢の不安もあり日々の業務に追われ1回のみ開催となった。今後は定期開催を目指す。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表2名に参加いただき、施設内のご様子や今後の行事、取組みの方針等について説明し、その場での意見をサービス向上に繋げている。	定期的に12～13名で構成され、自己・外部評価・改善点などの状況を報告し、意見を求めるなど双方向による運営が行われています。地域の情報や行事等の報告もあり、積極的に参加できる体制に取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本匠地区担当の包括支援センター担当者に運営推進会議に参加いただき、情報交換している。佐伯市福祉事務所生保担当者に対して、当該入居者の受診状況や利用の様子などを定期的に報告し関係構築を図っている。	毎月、市の介護保険係で介護保険法や生活保護法等の改正など状況に応じ相談を行い、認定更新の時は利用者のニーズの改善・新たな課題発生などの時は、解決方法等について協議されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「禁止の対象となる行為」を資料としてまとめ、職員全員が把握できるよう努めている。玄関施錠は時間を定めて行い、日中は開放し拘束はしないよう取り組んでいる。	毎月のカンファレンスの時、個人別の取り組み表を作成され、身体拘束にならない支援について協議し、対応がなされています。見守り・声掛け・連絡等、フローチャートを作成し、近隣の人との連携が保たれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束廃止委員会の活動門活発化し、月に1～2回程度のカンファレンスを実施している。各居室担当者が虐待防止チェック表に合わせて評価する仕組みとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者で制度活用者はいないが、制度理解のための学習の場は法人グループ全体の合同学習会である「人権研修会」定期的な研修を行い参加、啓発を図っている。職員の共通意識のレベルアップを図るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居又は入居契約の際には十分に説明を行い、承諾を得、その内容に対する理解と納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で入居家族や運営推進委員の意見や要望などを伺っている。モニタリング時に本人やご家族の意見を反映できるよう努めている。家族には行事等に参加していただき、日常の様子がかかる機会を設けている。	本人の意向・家族の集まり・意見箱の設置など意見等を施設に伝えやすい環境づくりや、苦情等があった場合職員で共有しその対応がなされ、地域包括支援センター、国保連など施設外に苦情・意見を申せることを伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも月に一度のカンファレンスの機会を設定し、その中で意見交換し、改善していく箇所を見直し実践に努めている。	月に一度のカンファレンスや勉強会で意見交換し、職員の考え・アイデアが反映できるシステムが構築され、施設の運営方法・利用者の受け入れなど職員と協議する環境づくりに取り組みがなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	固定給への変更や、資格取得を奨励支援し資格手当の付与、業績など総合的な評価に応じた昇給、介護職員処遇改善給付等、所得の向上を図ることで就業意欲を高め、それぞれの目標達成をサポートしていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況は実際に現場を見る、又は管理者より報告を受け把握に努めている。研修への参加を通じてのスキルアップを図り、合同学習会や研修会（虐待防止、拘束廃止等）も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループのグループホームとの定期交流を行っており、入居者同士に交流の場にも参加してもらっているが、同業や事業所との交流はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談に出向きアセスメントを実施、不安なことや要望の聞き取りを行う。生活歴を把握し安心して生活を営んでいただけるようご本人を理解し、良い関係を築くことができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご本人から窺うことのできなかつた不安や要望を聞き取り、対応手段を協議してサービスの向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学をしていただき、入居予定者の要望に添える環境なのかをケアマネージャーやご家族と協議するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「有する能力」を活かした支援への取り組みを心掛けている。配膳下膳、茶碗洗い片付け、掃除等ホーム内での自立へ向けた支援を実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会時などに入居者の日常の様子を伝えるなどして、家族の方との良好な関係が築けるよう努めている。特に医療支援については受診状況報告書を提供し安心できる状況を作るように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	様々な地域からの入居者や身体的認知的に重度化が進んでおり、関係維持が困難になる盤面に遭遇することが多い。	本人に関わり合いのある人を把握し、生活の延長上の知人・友人等へ家族の理解を得て、電話や手紙での連絡を繋げる体制が出来ており、担当職員を配置するなど、馴染みの職員が継続的に支援できる体制が保たれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や思いを把握し孤立しないような配席を心掛けている。常に観察を怠らず不穏な空気を感じた場合は、不信感を与えないよう変更している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同系グループ施設への転居の場合は継続した支援を行うための介護で共有を図るなどしている。その他の方々に関してでも担当ケアマネージャーの要請等相談や支援方法について協議することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や声かけ、観察を行い意向をくみ取れるよう面談している。意思疎通が困難な場合はご家族の意見も求め把握に努めている。	家族・親族など本人を取り巻く関係者から情報を収集し、個別的に言葉にしにくいことを、本人の表情や行動などを客観的に観察し、本人本位の支援に取り組みがなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や趣味などの聞き取りをし、ニーズの把握を行い、適したサービスが提供できているか経過をみている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別支援記録や業務日誌、申送り等で日々の状況把握を行っている。見直し、問題等があればカンファレンス会議で協議し改善するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時等担当者会議を開催し、現状報告、課題について話し合い、必要と思われる支援内容の変更現状にあった計画書の作成を行っている。	本人・家族・関係者等から意向・要望を受け取り、担当の介護職員の意見を聞き介護計画が作られ、更新前でも長期・短期目標に分け、モニタリングに基づいた、介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録やカンファレンス、申送りなどで情報共有し、気づきに対しての対応策を日々検討しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にニーズに対する対応は難しい面がある。しかし、外出の幾何を増やすなど内外の方々との触れ合いをなどを行えるよう計画を立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する小中学校の児童生徒との交流ができ、苑庭で園児と遊んだり定期的な子供たちの来訪は入居者の喜びとなっているようだ。身心の力を発揮できているかは不明だが暮らしが豊かであるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を重視し、かかりつけ医の変更はしないようにしている。病院施設間で適切な情報交換をすることで緊急時の対応がスムーズに行えるようにしている。	希望するかかりつけ医となっています。定期健診では家族の協力を得ることがあります。変化があった時は電話にて家族に報告し、利用者それぞれの医療関係とも協力体制をとっており、常に適切な医療を受けられるよう努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援の中で気づきや変化についてこまめな報告を行い、看護師による適切な判断をしてもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的な面会を行うなど入院時の現状把握、回復状況の確認に努めている。また退院時は入院中の情報を聞き即応できるように努めている。また相談員とも面談し、早期退院に向けての調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身心の状態変化を早期に発見し、ご本人に合った支援を行えるようにしている。現状での対応が困難な場合はご家族と転居も含めた話し合いを行い対応に努めている。	利用者の希望に添えるよう、体調に変化があった時はその都度家族・かかりつけ医と職員が話し合いを重ねながら施設として出来る支援に努めています。ここ数年で看取りの経験も重ね、職員間で話し合いを持ちながら今後の支援に繋がる体制づくりに取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導による救急救命や心肺蘇生方法などの講習会に適宜参加しスキルアップを図るとともに、今後定期的に学習した技術を反復復命する機会を法人単位で実施する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回実施する計画だ。3月中の実施に向けて計画を進めることとする。今回は消防職員の指導を受ける機会とし、消防設備の定期点検を実施し器具等の不具合のないことを確認したい。	定期的な訓練が行われています。様々な場合を想定して訓練計画を立て、実施する方向で進めていますが、地域の方も参加しての訓練が十分でないためこれからの課題として、取り組まれ準備されています。	備蓄に関して、食材等は常に数日間分あるものの、災害時用の備蓄が十分ではないため出来るだけ早めに準備されることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生活敵を知ることで人格の尊重を目指しているが、職員全員が把握するまでには至っておらず、必ずしも適切な言葉かけではないこともあると思われる。	研修も行われ、職員それぞれが誇りやプライバシーに配慮した処遇に取り組まれています。現在は、職員間で共通認識を持つための体制作りを工夫され、取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話をよく聞き、いま何をしてほしいのかを把握できるように努めて、本人の希望がかなえられるように対応しているが、職員による認識理解にまだまだ温度差は否めない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日行っているラジオ体操や行事ごとにはなるべく全員が参加できるよう促しているが強制はしていない。自由に過ごし方や職員に対して「今日は何する?」と委ねてくる方もいて、個々に合った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服をご家族に用意していただき、今日着たい服を選んでいただいている。自己決定が困難な方に対しては上下のバランス、動きやすさ、ご本人に合うコーディネートを提案している。散髪は2カ月に1回程度で行い、身だしなみに注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時に朝食にパン食を取り入れ楽しみにしている入居者様も多い。食事の準備や片付けなども個々の有する能力に合わせて支援することをしている。外食支援も定期的に行い好評だ。	利用者が、食事をより楽しんでもらえるよう工夫された取り組みをしています。季節を感じ楽しんでもらえるよう、野菜の収穫を一緒にし、好みを聞いて出来る限り希望に添えるよう努め、イベント食や外食の支援に取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取量や水分量をチェックしている。食べやすくカットしたり嫌いなものや禁忌食材がある場合は別のものに変更するなど、彩りに工夫しながら個々に合わせた必要量の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアができる方には声かけし、磨き残しがないか確認している。要介助の方は職員の支援の下、個々に合った口腔ケアを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握を行い、声掛け排せつ介助を実施している。できる動作はしてもらう個々にしており、日中は布パンツで過ごしている方もおいでになる。	利用者一人ひとりにあった支援に努めています。排泄チェック表で、職員全員が常に様子を把握しながら、安全や清潔に配慮し、出来るだけ自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を取り入れ、それを促し自然排便ができるよう支援している。便秘気味の方には医師の指示を仰ぎ、緩下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日できるようにしているが、介助の必要な方には施設側の都合で行ってしまう場合が多いが、一人ひとりに掛ける時間はゆったりとなるよう心掛けている。	利用者が気持ちよく入浴を楽しんでもらえるよう、雰囲気作りや出来る準備は一緒に行い利用者合った支援に努めています。体調管理も家族と相談しながら入浴後のケアに努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の睡眠のリズムはさまざまであり、特に入居間もない方は眠りが浅いようであり、不安なく眠れるよう支援している。日中、傾眠傾向にある方にはなるべく覚醒していただくように声かけし作業の提案などしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専任看護師の指示の下、看護師が服薬管理を行っている。ファイルを作成し処方箋等を確認し誤薬のないよう努めている。体調の変化が見られる時は即座に看護師に連絡・相談し、指示を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活支援をして毎日役割をもち活発に生活している方もいるが、受け身の方も多いため、本を読む、散歩の行くなど、その方のその日の体調を校了して支援を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望により散歩に出かけたり、季節ごとの外出や歳時記に合わせたドライブの機会を設けている。また家族の協力の下、自宅に戻る等外出を促している。地域の行事にも参加できるよう計画を立て、地域の方々の協力が得られるようにしている。	利用者の体調や気分にあわせ、近所に散歩に出かけたり地域の行事に参加し、季節ごとに計画を立てドライブに出かけています。家族の協力を得て外出支援に取り組まれています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との協議の上で所持するか否か決めているが、所持した場合、「どこに隠したか分からない」、「盗られた」など不穏になることも多く大切さの理解や使用については困難となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは行えていないが、電話を掛けたりかかったりした場合はスムーズにやり取りできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけを工夫し、湿度や室温を調整し入居者が過ごしやすい環境になるよう工夫している。トイレへの誘導も同じ場所にすることで「いつもと同じ」感覚でいられるよう支援している。	利用者が、清潔で居心地よく過ごせるよう温室管理や家具の配置・生活スタイルに配慮された共用空間づくりに努めています。飾りつけも季節感のあるものを工夫し、職員と一緒に作ったものを飾られ明るく気持ちの良い空間づくりをされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	協働空間においてソファやイスなどで気の合った入居者同士が談笑できるよう余裕を持って配置し、自由に過ごしていただけるように居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた枕や布団、見慣れたカレンダーなどを持参していただき、落ち着いた環境づくりを目指している。	利用者が馴染みの物を持ち込まれ、居心地よく過ごせるような居室づくりに取り組まれています。安全・安心して過ごしてもらえるよう環境づくりに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族同意の下で名前の表記や分かりづらい部分は文字を大きくするなどの工夫をしていて、自分の部屋との認識づくりを誘導している。トイレも分かりやすく表示し自分の意思で行動してもらえるよう工夫している。		